

# D—13 生活改善総合対策樹立のための調査研究 について——食糧構成部門——

女子栄養大 香川 綾  
農林省生活改善課 ○佐藤チヤウ

## 1. 研究の目的

農家における家計消費構造のうち、食糧構成についてその好ましいあり方を、農家標準家族世帯を設定し、農閑期、農繁期の労働量、地帯などを考慮して、物量的、金量的に明らかにするものである。

2. 方法 数年後の労働量を推定して算出された栄養基準量を、標準世帯に合わせて一世帯分を出し、便宜的にそれから1人分の食糧構成基準原案を作成した。(38年家政学会に中間報告)更に現地の生活改善普及員らの協力を得て1週間単位の献立を作成し、それを岡山県下の農家において実験、修正し、加筆を行なった。修正された基準案を金額に換算し基準とした。

## 3. 成果

- ア 食品を5グループの食品群に分け、農家の実情に基づき、食品選択ができるようにした。
- イ 労働量から算出された基準量を、農家の現状と考慮し変更した。
- ウ 献立作成は1週間分を単位とし、栄養所要量はできるだけ1日毎に、また食品群別摂取量は、1週間の中で充足させることにした。
- エ 農業地帯別、また農繁期における労働量の差についても考慮した。
- オ 38歴年における全国平均単価から必要な食物費の試算を行ない、生計費算出の基礎とした。